

## ひまわり



令和4年10月3日(月)

燃える闘魂

1990年、イラクのクウェート侵攻から始まった湾岸戦争では、クウェート在留邦人41人がイラクの人質となりました。当時、日本政府は具体的な対策が打てずにいました。そんな時、参議院議員だった猪木さんは他のレスラーとともにイラクに赴き、プロレスを通じてイラクの指導者の心を動かし、邦人の解放に尽力ことは有名な話です。肝の据わった人物だと感じました。また、その後もスポーツを通じた平和活動を継続します。1995年には、拉致問題などで孤立する北朝鮮で「平和の祭典」を開催し、プロレスを通じた平和外交を展開した人でした。

元プロレスラー、国会議員も務めたアントニオ猪木（本名：猪木寛至）さんの訃報が伝えられました。一昨年、「アミロイドーシス」という病に罹ったことが報じられました。アミロイドという異常蛋白質が、全身の臓器に沈着し障害をおこす難病です。ひまわり19号でもふれたアルツハイマー型認知症は、脳へのアミロイド沈着が原因です。

猪木さんが13歳の時、一家はブラジルへ移住。そこでは、大きな体をいかし、陸上競技（投てき）で活躍しました。当時、ブラジルを訪れていた伝説のプロレスラー力道山（りきどうざん）にスカウトされ、プロレスの道を歩み始めました。その後、故ジャイアント馬場さんとのタッグは、最強だったことを記憶しています。今ほど娯楽のない時代、プロレス中継は楽しみのひとつでした。私が小学生の頃、いつも祖父母と夕食をしていました。プロレス中継を見ながら食事をしていた祖父が、興奮のあまりに口から味噌汁やご飯をこぼしていたのは懐かい思い出です。

これまでの猪木さんの生きざまを見てきて、強く感じていることがあります。それは「誰かに任せらず自分が動く」、「自分が苦しくても人に元気を与える」、「人のために尽くす」ということです。

またひとつの時代が終わりました。「燃える闘魂」「元気ですかー！元気があれば何でもできる」「1、2、3、ダーアー！」。そんなフレーズを思い出しながら、アントニオ猪木さんに合掌。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

